



北島町立図書館・創世ホール文化講演会
 海野十三先生◎生誕125周年記念特別企画

大森望◎講演会

「海野十三、小松左京から『三体』 —現代SF最前線—」

日時▼令和5年2月12日(日)

14時30分～16時 (14時開場)

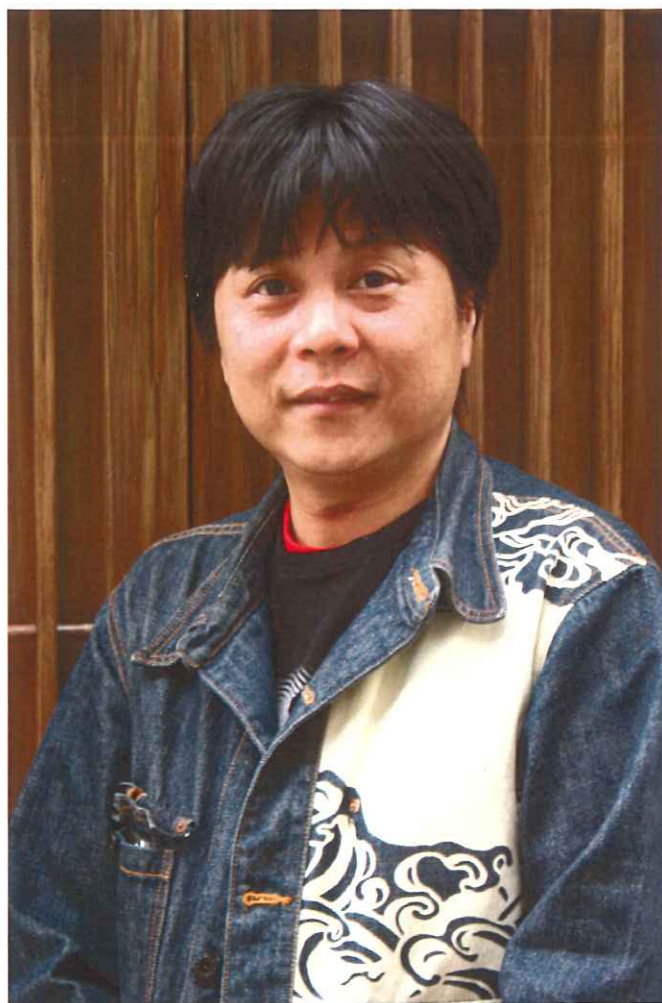
会場▼3階多目的ホール 入場無料



【講師・大森望先生からのメッセージ】
 『日本SFの父・海野十三』が徳島市に誕生して二十五年。海野十三全集、全十五巻の監修を務めた小松左京は、一九〇〇年代に花開いた日本SFを牽引し、一九七〇年代には大友政晴、前田サテ、プロレタリアSFを牽引し、一九七〇年代の『日本SF』は四〇〇万部の大ベストセラーを記録した。その『日本SF』に大きな影響を受けた中国SF、劉慈欣の『三体』は、一九七九年、リヴァウーレンツェンで『三体』を翻訳し、二〇〇〇万部を売り、その後のSF界を震撼させた。『三体』は、現在の世界SFを代表する傑作として、北島町と海野十三の縁を今に繋いでいる。



海野十三先生◎生誕125周年記念特別企画◎
 大森望講演会★
 海野十三、小松左京から『三体』へ—現代SF最前線—



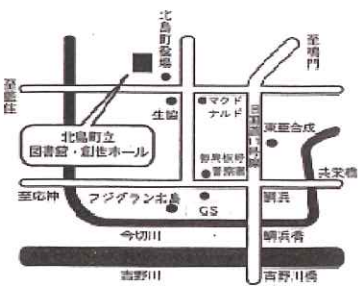
講師▼大森望 (おおもり・のぞみ) 氏
 1961年高知市生まれ。京都大学文学部卒業後新潮社入社。その後退職してフリーとなり、様々な編集で多くの賞を受賞。話題作「三体」三部作の共訳も手がける。

内容▼SF小説紹介の第一人者として永く第一線で活躍中の翻訳家・評論家の大森望氏をお招きし、世界SFの最前線について講演をしていただきます。
 主催▼北島町立図書館・創世ホール

正派若柳流 日本舞踊の会 真鶴

日時▼令和5年4月2日(日)
 13時 (12時30分開場)
 会場▼3階多目的ホール 入場無料
 主催▼正派若柳流真鶴会)
 問合せ▼若柳真鶴 (090-8690-4112)

※創世ホールに来場される方へ※
 ▼入場される方には、マスクの着用と手指のアルコール消毒をお願いいたします。
 ▼観客同士の距離を一定の間に保つため、3階多目的ホールの座席数を減らしております。(前後左右を1席空けてお座りいただくようにしております)
 ■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



北島町立図書館・創世ホールの関わりについて●小西昌幸

■先月号(2023年1月号)「文化ジャーナル」で、池田憲章氏追悼文を書きました。続編として北島町立図書館・創世ホールとの関わりについて、「文化ジャーナル」での紙面登場一覧、催しへの登壇記録、あわせて珍しい写真、新聞記事をご紹介します。限られた紙面スペースですが、池田さんの業績と思い出を偲びたいと思います。

【池田憲章氏★文化ジャーナル登場リスト】

- 第49号(1999年2月号)海野十三研究の新局面① ~SF研究者・池田憲章氏に聞く(聞き手◎山下博之、小西昌幸)
●第50号(1999年3月号)海野十三研究の新局面②
●第51号(1999年4月号)海野十三研究の新局面③
●第52号(1999年5月号)海野十三研究の新局面④
●第54号(1999年7月号)海野十三研究の新局面⑤
●第55号(1999年8月号)海野十三研究の新局面⑥
●第56号(1999年9月号)海野十三研究の新局面⑦(最終回) / 海野十三の幻の作品をプランゲ文庫で発掘! 【執筆◎池田憲章】
●第69号(2000年10月号)海野十三新発見資料について(上) 【執筆◎池田憲章】
●第71号(2000年12月号)海野十三新発見資料について(下) 【執筆◎池田憲章】
●第76号(2001年5月号)『新青年』の名編集長・水谷準さんの死を悼む 【執筆◎池田憲章】
●第84号(2002年1月号)小松崎茂先生の思い出【執筆◎池田憲章】
●第135号(2006年4月号)佐々木守さんの目線【執筆◎池田憲章】
●第164号(2008年9月号)大伴昌司ご母堂・四至本アイさんに聞く① (聞き手◎池田憲章、小西昌幸)
●第165号(08年10月号)大伴昌司ご母堂・四至本アイさんに聞く②
●第166号(08年11月号)大伴昌司ご母堂・四至本アイさんに聞く③
●第167号(08年12月号)大伴昌司ご母堂・四至本アイさんに聞く④
●第183号(2010年4月号)池田憲章氏の書簡掲載
●第190号(2010年11月号)SF特撮研究者・池田憲章氏の手紙
●第193号(2011年2月号)2・27池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫」にご注目ください 【執筆◎小西昌幸】 *催しの広報展開
●第194号(2011年3月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」①
●第195号(2011年4月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」②
●第196号(2011年5月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」③
●第197号(2011年6月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」④
●第200号(2011年9月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」⑤
●第201号(2011年10月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」⑥
●第203号(2011年12月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・

- 金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」⑦
●第204号(2012年1月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」⑧【完結】
●第280号(2018年5月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」①
●第281号(2018年6月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」②
●第282号(2018年7月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」③
●第283号(2018年8月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」④
●第284号(2018年9月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」⑤
●第285号(2018年10月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」⑥
●第286号(2018年11月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」⑦
●第287号(2018年12月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」⑧
●第289号(2019年2月号)【講演採録】池田憲章氏講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」⑨【完結】
●第325号(2023年1月号)【追悼記事】「SF特撮研究者・池田憲章さんを偲ぶ」 【執筆◎小西昌幸】

【創世ホール講演会への登壇】

- 2003年3月23日 竹内博講演会「3人の怪獣王~円谷英二、香山滋、大伴昌司」における講師紹介で、登壇。*池田氏は、竹内博さんとの長年の友情から、東京から手弁当で駆けつけてくださった。もったいないので講師紹介の形で登壇いただき、わずかではあるが、謝礼をお支払いした。
●2007年2月25日 池田憲章講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」 *キューテレビ(北島町のケーブルテレビ局)で録画放映。映像記録現存。
●2011年2月27日 池田憲章講演会「脚本家・金城哲夫~特撮とドラマを初めて融合させた人」 *キューテレビで録画放映。映像記録現存。
▼写真下=2007年3月4日新宿。左から池田憲章、本多正一、小西昌幸、横山壽信、末永昭二▲写真上左=2008年6月13日品川。左から池田、四至本アイ(大伴昌司ご母堂)、小西▲写真上右=2003年3月23日北島町立図書館。左から2人目=池田、後列中央の髭の人が竹内博▲徳島新聞記事。2007年3月2日、文化面。採録=沢口佳昭氏



乗庁 月号 2007年(平成19年)3月2日 金曜日 文化(12)

ウルトラマン「故郷は地球」 脚本家・佐々木守がめざしたもの

「ウルトラマン」の脚本家として知られる佐々木守(1929-2023)が、2007年3月4日(新宿)に開催された講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」で、自身の創作活動について話した。

佐々木守は、1929年(昭和4年)3月、石巻市の小川町に生まれる。少年時代は、父の転居で、東京、大阪、京都、神戸を転々とした。1947年(昭和22年)に、東京府立第一高等学校(現・東京大学)に進学。1950年(昭和25年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1951年(昭和26年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1952年(昭和27年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1953年(昭和28年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1954年(昭和29年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1955年(昭和30年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1956年(昭和31年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1957年(昭和32年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1958年(昭和33年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1959年(昭和34年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1960年(昭和35年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1961年(昭和36年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1962年(昭和37年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1963年(昭和38年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1964年(昭和39年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1965年(昭和40年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1966年(昭和41年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1967年(昭和42年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1968年(昭和43年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1969年(昭和44年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1970年(昭和45年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1971年(昭和46年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1972年(昭和47年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1973年(昭和48年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1974年(昭和49年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1975年(昭和50年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1976年(昭和51年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1977年(昭和52年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1978年(昭和53年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1979年(昭和54年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1980年(昭和55年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1981年(昭和56年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1982年(昭和57年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1983年(昭和58年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1984年(昭和59年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1985年(昭和60年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1986年(昭和61年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1987年(昭和62年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1988年(昭和63年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1989年(昭和64年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1990年(昭和65年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1991年(昭和66年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1992年(昭和67年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1993年(昭和68年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1994年(昭和69年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1995年(昭和70年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1996年(昭和71年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1997年(昭和72年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1998年(昭和73年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1999年(昭和74年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2000年(平成12年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2001年(平成13年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2002年(平成14年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2003年(平成15年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2004年(平成16年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2005年(平成17年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2006年(平成18年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2007年(平成19年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2008年(平成20年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2009年(平成21年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2010年(平成22年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2011年(平成23年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2012年(平成24年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2013年(平成25年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2014年(平成26年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2015年(平成27年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2016年(平成28年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2017年(平成29年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2018年(平成30年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2019年(令和元年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2020年(令和2年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2021年(令和3年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2022年(令和4年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2023年(令和5年)に、東京府立第一高等学校を卒業。

「正義とは何か」問う



「ウルトラマン」の脚本家として知られる佐々木守(1929-2023)が、2007年3月4日(新宿)に開催された講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」で、自身の創作活動について話した。

北島町創世ホール 池田憲章さん講演 池田憲章さんは、1929年(昭和4年)3月、石巻市の小川町に生まれる。少年時代は、父の転居で、東京、大阪、京都、神戸を転々とした。1947年(昭和22年)に、東京府立第一高等学校(現・東京大学)に進学。1950年(昭和25年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1951年(昭和26年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1952年(昭和27年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1953年(昭和28年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1954年(昭和29年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1955年(昭和30年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1956年(昭和31年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1957年(昭和32年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1958年(昭和33年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1959年(昭和34年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1960年(昭和35年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1961年(昭和36年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1962年(昭和37年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1963年(昭和38年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1964年(昭和39年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1965年(昭和40年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1966年(昭和41年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1967年(昭和42年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1968年(昭和43年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1969年(昭和44年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1970年(昭和45年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1971年(昭和46年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1972年(昭和47年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1973年(昭和48年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1974年(昭和49年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1975年(昭和50年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1976年(昭和51年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1977年(昭和52年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1978年(昭和53年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1979年(昭和54年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1980年(昭和55年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1981年(昭和56年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1982年(昭和57年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1983年(昭和58年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1984年(昭和59年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1985年(昭和60年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1986年(昭和61年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1987年(昭和62年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1988年(昭和63年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1989年(昭和64年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1990年(昭和65年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1991年(昭和66年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1992年(昭和67年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1993年(昭和68年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1994年(昭和69年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1995年(昭和70年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1996年(昭和71年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1997年(昭和72年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1998年(昭和73年)に、東京府立第一高等学校を卒業。1999年(昭和74年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2000年(平成12年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2001年(平成13年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2002年(平成14年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2003年(平成15年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2004年(平成16年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2005年(平成17年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2006年(平成18年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2007年(平成19年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2008年(平成20年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2009年(平成21年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2010年(平成22年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2011年(平成23年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2012年(平成24年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2013年(平成25年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2014年(平成26年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2015年(平成27年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2016年(平成28年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2017年(平成29年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2018年(平成30年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2019年(令和元年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2020年(令和2年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2021年(令和3年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2022年(令和4年)に、東京府立第一高等学校を卒業。2023年(令和5年)に、東京府立第一高等学校を卒業。

怪獣ジャミラの哀れな運命通し

「ウルトラマン」の脚本家として知られる佐々木守(1929-2023)が、2007年3月4日(新宿)に開催された講演会「故郷は地球~脚本家・佐々木守がめざしたもの」で、自身の創作活動について話した。